

RINNE

山形駅西口拠点文化複合施設

地域コミュニティの活性化と生と死の繋がりを生み出す 緑あふれる新たな形の複合文化施設

地元山形の中心市街地である、山形駅の西口を敷地とし、高齢者やママたちがお茶をする場や、若者が勉強をしに訪れる空間に樹木葬を設け、シンボルツリーを中心として、食べる・生活するということと、死という概念を身近に感じさせるそれは決して恐ろしいことではなく、常にこの世が廻り回っていることを示し、全てがつながって初めてその施設は息をする



LOGODESIGN

DESIGN CONCEPT

食べる、生きる、死ぬ
全ては巡り巡って繋がっている
植物のツルのようにぐるぐるとした
オブジェや緩やかな曲線で表現

LOCATION・OVERVIEW

所在地：山形市双葉町一丁目 地内
駅を出てすぐの場所でタクシー乗り場やバスロータリーに面している。

人通り
学生、高齢者、
子連れのパパが
よく見られた

周辺
ホールやホテル
などの高い建物が
あり、囲い込まれて
いるような状態

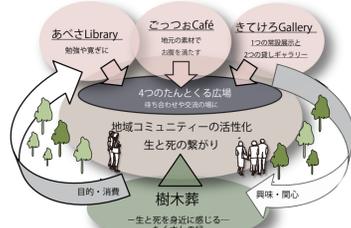


TARGET

ベースとして老若男女問わずすべての人が訪れる施設に
MAINE...地元学生や高齢者
SUB...ママ世代 山形駅周辺の学校と介護施設の割合

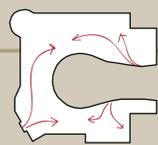


DIAGRAM



1F

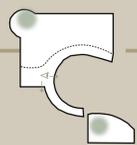
壁や仕切りがなく、
入口はそれぞれあれど
図書館・カフェ・ギャラリー
がすべて有機的に繋がっている



図書館、ギャラリーそれぞれに
二階へ上がる階段がある

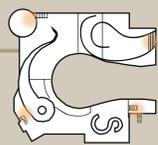
2F

テラスから、ギャラリーの
二階から、それぞれ屋上階
に向かう階段がある



3F

外からのアクセスも可能
アウトサイドから繋がる



【もしものSTORY 家族の場合】



PROCESS

なぜ樹木葬と文化施設？

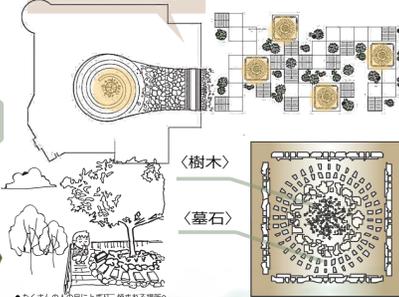
近年、未婚のまま亡くなったり、
その後のお墓の手続きをする人がいない
というケースが増え、山形県も例外ではない。
代々続くお墓にとられず、
不特定多数の骨と共に眠り自然に還る、
という樹木葬の需要が高まっている

駅の中にはファンシーショップや
科学館などはあるが、
学生が落ち着いて勉強したり、
お年寄りが集まって話すような
場所がない

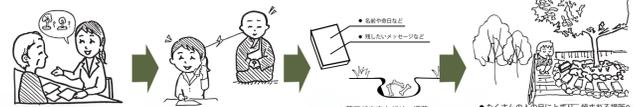
〈樹木葬のメリット〉

- 1 遺骨は埋葬する
- 2 無縁墓にならない
- 3 自然志向の埋葬法
- 4 費用を抑えられる

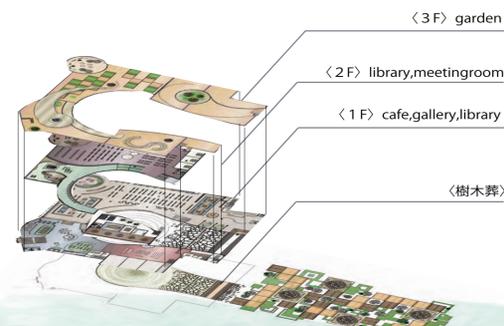
5つのエリアがあり、
1つのエリアに
約100人程入る想定



死という概念を重く考えず、家族ではなくても
悼む事の出来る施設をつくりたい！



ZONING

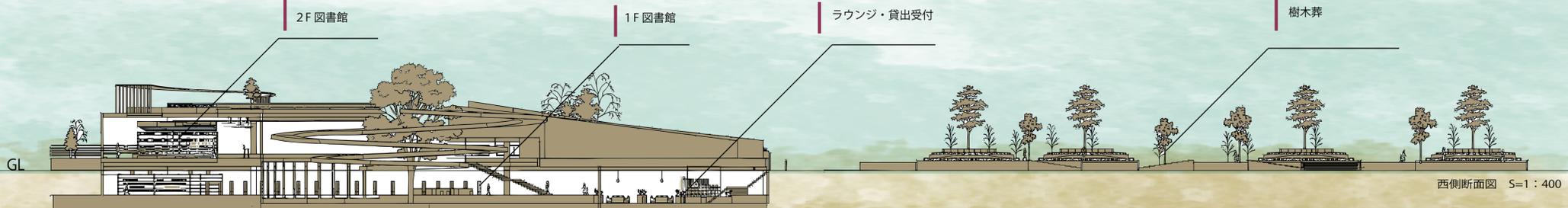


2F 図書館

1F 図書館

ラウンジ・貸出受付

樹木葬



西側断面図 S=1:400